



とびっくす No.1

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www2.pref.shimane.jp/suisi/>)

巻頭 《 「とびっくす」の発行について 》

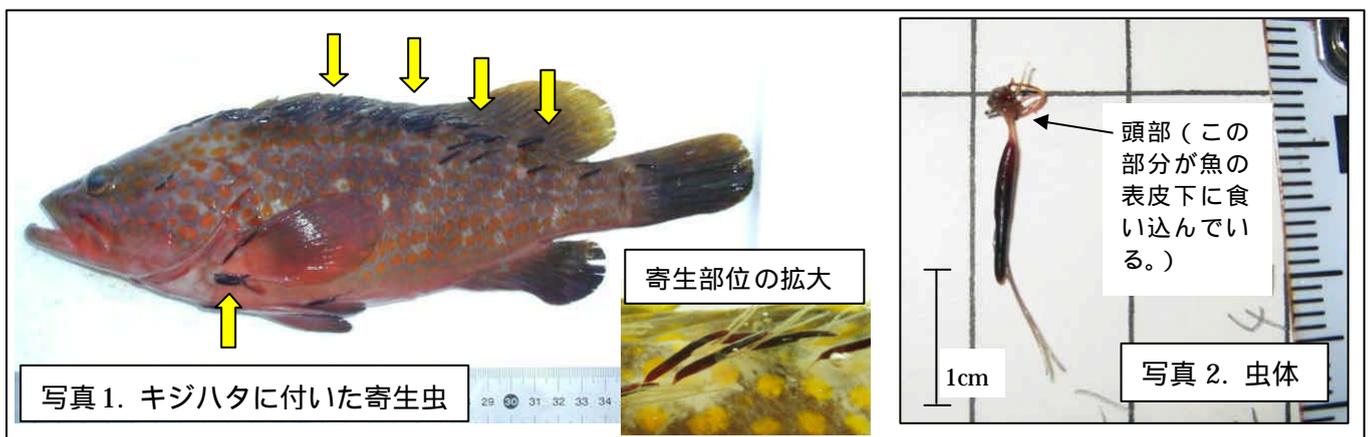
このたび島根県水産試験場では従来の漁海況情報誌「トビウオ通信」に加え、海や魚、漁業に関するちょっとした情報や緊急速報、水試の研究成果などについて、「トビウオ通信号外 とびっくす」として漁業者や県民のみなさんに随時情報発信してゆくこととなりました。漁業に携わる方々や県民の方々のお役に立つ情報をどんどん提供してゆきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。(なお、発行は不定期となります。)

第 1 号の話題は、最近石見部でハタ類に見られる謎の寄生虫についてです。

話題 《 ハタ類の外部寄生虫 》

～ 突如発生した珍しいイカリムシの仲間 (人が食べても害はありません) ～

今年 10 月頃から、石見西部で漁獲されるキジハタ等のハタ類の体表に、見たこともない黒いヒモのようなものが付着しているのが報告されるようになりました(写真 1)。水産試験場で調べた結果、これは甲殻類のイカリムシの仲間の外部寄生虫で、これまであまり報告がない珍しいものであることがわかりました。人が食べても害はありませんが、過去に例がないほど多く発生しており、魚の外見が悪くなることからハタ類の価格下落などの被害が生じています。これについて、水産試験場では聞き取り調査や市場調査を行



っています。

(1) 寄生虫の正体：46 年ぶりに報告された和名のないイカリムシ

ほとんどの漁業者の方にとってこの寄生虫は今回初めて見るものでした。水試でも当初は種類が分からなかったため広島大に送って同定した結果、本種は和名のないイカリムシの一種(学名 *Lernaenicus ramosus*)と判明しました。本種は公式には 1958 年(昭和 33 年)以来の報告となります。なお、イカリムシ類は甲殻類(エビやカニ)の仲間で、見た目は全く似ていませんがケンミジンコに近縁です。

(2)発生水域は江津～萩の水域

ハタ類は釣り・定置・小型底びき網などにより県内各地で漁獲されていますが、寄生虫の発生が確認された漁場は、県内では現在のところ江津市以西の海域だけです(図1)。また山口県水産研究センターからの情報では仙崎や萩の市場でも同じ寄生虫が見られたとのこと。

(3)本種の大量発生は初めて。発生は今年9～10月頃から

聞き取りでは、毎年わずかですがハタ類にこの虫の寄生はあったようですが、このように大量に発生したのは少なくとも県下では初めてと考えられます。大発生の原因は現在のところ不明です。

時期としては今年9～10月頃から寄生虫に気づいたという漁業者・漁協担当者が多く、この頃から寄生虫は目立って増えたようです。しかし人によっては6月頃から気付かれていました。

(4)魚の表皮下に頭部を食い込ませて付着

寄生虫は通常魚体の背部や胸びれの付け根に多く見られ、頭部を魚の表皮下に錨のように食い込ませて付着しています。寄生虫の数は通常魚体1尾あたり数個体ですが、中には背中に毛が生えたように数十個体が寄生している場合もあり、このような場合は魚も衰弱するようです。

(5)一時はキジハタの約3/4に寄生が見られましたが、水温低下に伴い終息の見込み。

浜田市場での調査(釣り漁業)では、キジハタ(アカミズ)、アオハタ(アオバ)、マハタ(カナ)、アカハタにこの虫の寄生が見られました。11月中旬には寄生率がキジハタで76%にもなりましたが、12月の調査では寄生率は減少の傾向にあり、今後水温の低下と共に冬期には寄生虫の発生は終息するのではないかと思われます。しかし、今後來春以降の水温上昇に伴い再び発生がないか監視が必要です。

図1. 県内でハタ類の寄生虫が確認された水域(斜線部)

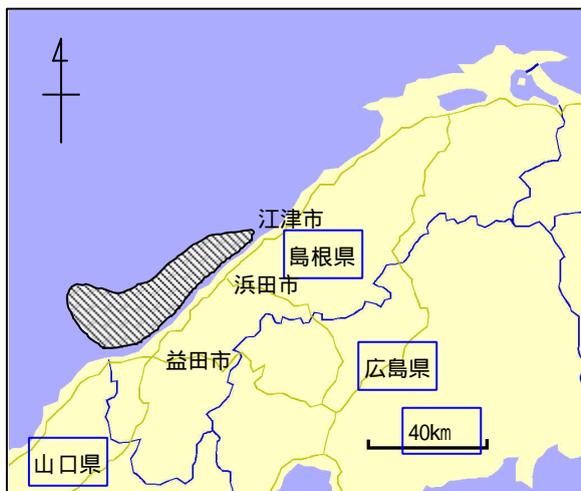
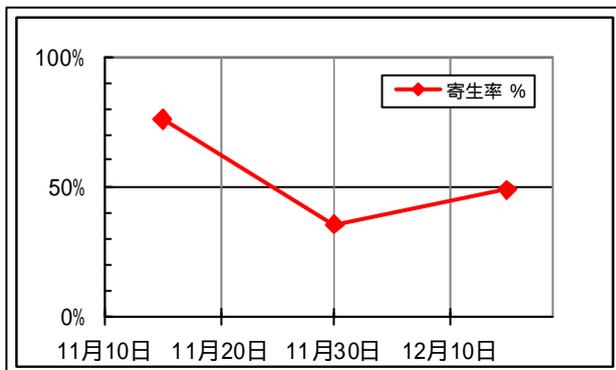


図2 キジハタにおける寄生率(はまだ漁協 釣り漁業)



水産試験場では漁業関係者や県民の方からの様々な情報をお待ちしています。珍しい魚が捕れたり海のことによって変わった現象などがありましたら、是非下記までご連絡下さい。

本誌はカラーの写真や図を多く使用しています。FAXでご覧の方は、ぜひインターネットで水産試験場ホームページにアクセスして本誌をカラーでご覧下さい。

島根県水産試験場 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1
TEL : (0855)22-1720 FAX : (0855)23-2079
ホームページ : <http://www2.pref.shimane.jp/suisi/>
E-mail: suishi@pref.shimane.jp